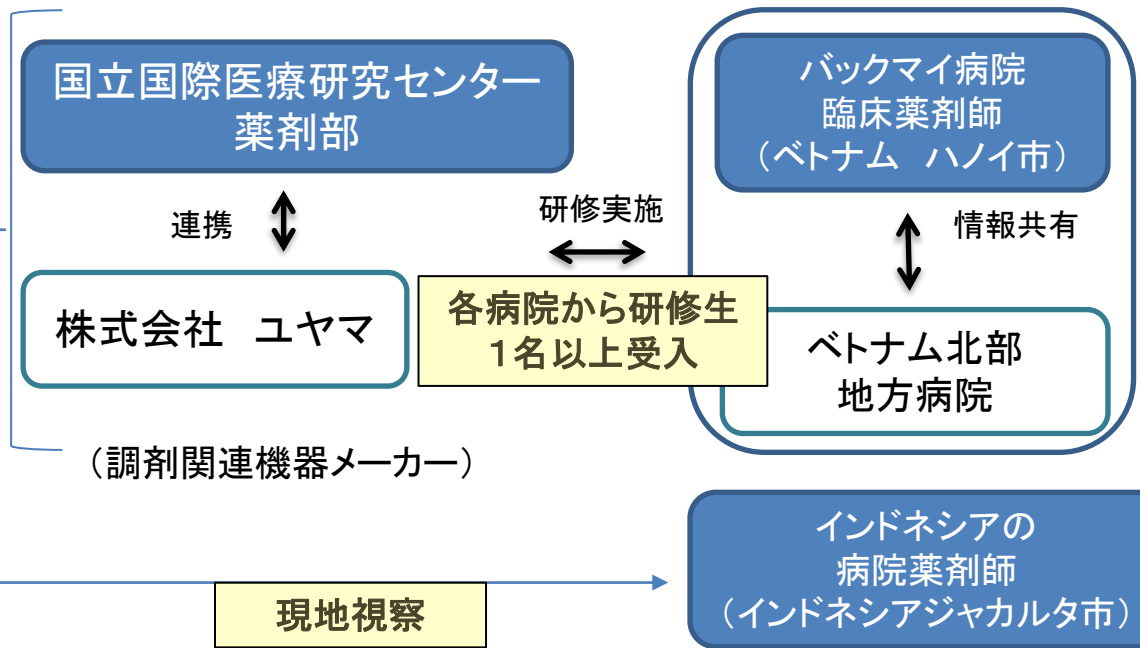


ベトナム/インドネシアにおける病院薬剤師業務強化を目的とした調剤支援プロジェクト

- ベトナムの病院薬剤師業務は、日常の患者への薬剤の供給の部分に労力が割かれており、患者に対する直接的な服薬指導の必要性が認識されているものの、他の業務の負荷が大きく、臨床的な薬剤師業務を行うマンパワーの捻出ができていない。
- 日本の病院薬剤部門では、複数の調剤関連機器を導入することにより、調剤業務の効率化および、薬剤の取り違い防止等の観点から医療安全の向上につながっている。
- 共同で事業を行う調剤機器メーカーであるユヤマは、これまでベトナム南部の2施設において、全自動錠剤分包機を販売した実績がある。今回、これまで継続的に研修事業を実施してきたベトナムの北部の基幹病院であるバックマイ病院および周辺の地方病院に対し、調剤関連機器の紹介を行い、その導入メリットを研修を通じて、体験する機会を提供する。それに加え、現地を訪問し、現地の調剤業務が抱える問題点を把握し、調剤関連機器を導入することで改善が図られるか、また導入に向けた問題点の抽出、解決に向けての手順、購買意欲の有無について事業を通して確認する。
- ユヤマ調剤機器導入予定のインドネシア病院の現地視察を行い、次年度以降の事業展開を模索する。



- <2023年度研修スケジュール予定>
- 5-6月 多施設参加Webミーティングの開催
 - ・BMHを中心とした研修参加希望施設の募集、Web会議を実施し日本研修の参加施設選定
 - 7月 訪越研修 (NCGM3~4名、ユヤマ2~3名)
 - ・プロジェクトの概要の説明、現地薬剤部視察、調剤関連機器の導入に向けた予備調査
 - 10月 研修生受入 (各希望施設から1~2名) 最大6名
 - ・調剤関連機器の使用の現場を視察、研修/実習
 - ・ユヤマショールーム見学/調剤関連機器の説明
 - ・日本の臨床薬剤師業務の研修
 - 1月 訪越フォローアップ研修 (NCGM3~4名、ユヤマ2~3名)
 - ・研修を通して、調剤関連機器を導入について意向の最終確認
 - ・調剤関連機器導入に向けた問題解決に向けた活動
 - 11月 インドネシア訪問
 - ・インドネシア病院薬剤師の業務内容確認、相互意見交換、次年度以降の事業展開について調査